

会 議 録

会議の名称	令和4年度（2022年度）第2回豊中市立図書館協議会評価部会		
開催日時	令和5年（2023年）1月19日（木曜） 18時～19時30分		
開催場所	豊中市立岡町図書館 集会室	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事務局	読書振興課 岡町図書館	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員 (敬称略)	瀬戸口 誠 天瀬 恵子 吉田 哲平 津田 優子 平尾 和久	
	事務局	岡町図書館長・須藤 読書振興課主幹・佐野 読書振興課課長補佐・西浦 野畑図書館長・虎杖 庄内図書館長・西口 千里図書館長・山根 岡町図書館副館長・一ノ瀬 岡町図書館副館長・小堀 岡町図書館主査・大平 岡町図書館主査・浅尾	
	その他		
議題	1. 豊中市立図書館の評価について 2. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

令和4年度（2022年度）第2回豊中市立図書館協議会評価部会 記録

日時：令和5年（2023年）1月19日（木曜）18時から19時30分

場所：豊中市立岡町図書館 3階集会室

出席者（敬称略）：瀬戸口 天瀬 吉田 津田 平尾

欠席者（敬称略）：なし

事務局：須藤 佐野 西浦 虎杖 西口 山根 一ノ瀬 小堀 大平 浅尾

資料確認（追加資料）

【資料1-4】平成29－令和3年度評価項目表詳細版

【資料2-4】令和4年度（2022年度）来館者アンケート調査報告書

【資料2-5】令和元年度（2019年度）豊中市立図書館に関するアンケート調査報告書概要版

【資料2-6】来館者アンケートクロス集計

【資料2-7】図書館利用してる_あったらうれしい設備とは（LINEリサーチ）

【資料3-1】豊中市（仮称）中央図書館基本構想【概要版】

【資料3-2】（仮称）中央図書館基本構想に定めた評価指標（「豊中市の図書館活動Ⅰ報告」から抜粋）

●部会長

それではお手元の次第に沿って、議事を進めていきたいと思いますが、その前に図書館協議会図書館評価部会の運営方法について、委員の皆様にご了承をいただきたいと思っております。豊中市では、原則的に審議会を公開しております、本日は2名の方が傍聴に来ておられます。傍聴に関しましては10人の定員としておりますけれども希望者が定員を超えた場合は、その時の状況を見ながら私の方で判断させていただくということによろしいでしょうか。なお、傍聴の方には、アンケートをお願いしております。協議会を傍聴されてのご意見等をお伺いし、特に皆様にもお伝えすべき内容のものについては、ご報告いたします。

また前回（第1回）の会議録について、事前送付させていただいたものから特にどの委員からもご意見がございましたので、そのまま概要として会議録を公開させていただきます。

なお今回も同様に、会議録の公開の際には、発言者については個人名を掲載せず、委員とのみ表記して公開させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは議題に入りたいと思っております。豊中市立図書館の評価について、事務局から説明を願います。

●事務局

今回4点の資料を追加しました。前回の資料と併せてご覧ください。直前にお送りすることになりましたので、資料の内容につきまして事務局から説明させていただきます

す。

まず資料1-4をご覧ください。前回の評価部会で、図書館の自己点検報告書（資料1-1）を提出しましたが、中項目ごとに評価ランクを付けていることとお話ししました。それに対して、実際どのような作業によりランクを決定しているのかご質問をいただきました。資料1-4の表の右側にご注目ください。評価対象期間の年度ごとの数値の平均をとりまして、それが目標値に対して何%到達できているのかを計算します。それを小項目ごとに平均し、さらに小項目ごとの平均値を中項目でまとめて、もう一度平均を出すという過程で、評価ランクを決定しております。自己点検報告書のレーダーチャートに表記する際には四捨五入して載せています。

また目標値につきましては項目により性格の違いがあるように思います。例えば資料1-4の3ページに、2-7-2から2-7-5の一連の項目は、地域資料・情報の収集・保存・提供に関する内容ですので、実績を累積している数値になっています。毎年の保存すべき資料を増やししながら、目標値はそれぞれ5年後に到達すべき数値ですから、先ほど説明したような各年度の集計を平均して算出する方法では確かな評価ができないと考えまして、今回は累積値に対して目標値を比較しまして、累積と記した列にあるような評価ランクの基になる数値を採用しました。

ここでレーダーチャートについて補足説明いたします。資料1-1の自己点検報告書の8ページにレーダーチャートを掲載しておりまして、こちらに先ほどの中項目の数値を付けまして、このように表現させていただきました。

次に資料2-4来館者アンケート調査報告書をご覧ください。前回お渡ししたのは速報版でしたが、さらに報告書としてまとめました。特徴的な結果が表れましたのは、8から9ページにかけての満足度と重要度を問う設問の結果です。今回を含む3回の結果を満足度チャートにしていますが、満足度（表左）と重要度（表右）の乖離に注目すると、毎回の傾向として重要度は高いのに満足度は低く評価されるのは、「読みたい本や雑誌の充実度について」という項目です。重要度は3.85と最も高く、満足度が2.53となりまして、徐々に満足度は高まっておりますが、まだ乖離の差は大きいと感じています。もう1つ目立って数値が下がったのが、「閲覧用のいすや机の数について」という項目で、これはコロナ禍での座席の間隔を空ける措置をとりましたので、その影響も出ているように思います。また開館時間につきましても両者は乖離しています。職員対応は重要度が3.64に対して、満足度は3.49ということで他と比べても両者は均衡しております。「他の利用者のマナーについて」は、重要度3.50、満足度2.92となっております。自由意見欄にも居眠りや資料への落書きを指摘されるご意見も散見されます。

続いて資料2-5アンケート調査報告書概要版をご覧ください。令和元年（2019年）に実施しました非来館者を含むアンケート調査結果です。回答者属性は市民アンケート（郵送実施・非来館者含む）と来館者アンケートでご覧のようになっています。2.2. 読書習慣及び本・情報の入手方法に関する項目を見ますと、市民アンケートの結果にありますように読書量はほとんど読まないという回答が36.9%ありまして、残りの読む人の中でも、図書館では借りないという回答が48.3%ありました。では本・情報の

入手方法はといいますと、生活や仕事の情報はテレビ、インターネットという媒体が上位に挙がっております。本は書店で買う（48.5%）という声が多く、図書館で借りる（33.1%）という方も一定数いらっしゃいますが、このような結果が出ておりました。2.3.市立図書館の利用状況に関する項目では、利用頻度に差はありまして、利用形態等ご覧いただいているような結果が出ております。

裏面には2.4.市立図書館のこれからのあり方他の結果を載せておりますが、双方のアンケート結果に違いが出ています。中央図書館に機能を集約した後に残すべき機能については大きな差はありませんが、新聞・雑誌コーナーや子どものスペース、自習室機能のところで差が見受けられます。続く中央図書館のあり方に対する回答では、来館者の回答で蔵書の充実が6割を超えており、市民アンケート（44.4%）と差が出ております。開館時間の長さについても来館者アンケートのほうがより高くなっています。交通アクセスがよい、駐車場があるという項目では、市民アンケートの結果がより強く出ました。そして、中央図書館を含む図書館網全体のあり方については、中ほどにお示したように、市民アンケートでは駅前等に貸出・返却のポイントを設置というところが大きくニーズとして挙がっています。来館者アンケートでは、新たなサービスより蔵書の充実を優先や、現状のサービスと施設を維持という点を高く評価されているのが明確になっているように思います。双方の結果の違いに着目しまして、資料の1枚目を説明いたしました。

次に自由記述についても、それぞれの結果をまとめています。2枚目をご覧ください。市民アンケートは丸印、来館者アンケートは黒丸印、共通する意見は2重丸にしています。3.サービスについてお尋ねした結果ですが、市民アンケートには予約が集中するので最初の1か月は館内閲覧のみに限定してはどうかというご意見が見られました。ICTに関しても、無人IT化サービスの推進は却って利用者の足を遠ざけるのではというお声もいただきました。図書館に行かない理由としては、行事に関わって、わざわざ行きたいと思えるような企画やサービスがないと魅力を感じないとありますように、蔵書の充実だけでなく他にも来館の動機となるような取り組みも必要だと改めて思いました。市民アンケートでは広報につきましても、広報とよなかに行事や情報を分かりやすく載せてほしいと書いていただいた方がいまして、今回の来館者アンケートでも基本構想を知ったのは広報とよなかをご覧いただいたのが最初のきっかけという方が最も多かったことと考えあわせると、広報誌が市民のメディアとして大きな機能をはたしていることを改めて感じています。4.施設・設備等、5.運営に関わりましては、ご覧いただいている通りです。6.再編・再配置ではコストに関するご指摘も両面ありまして、いろいろな視点からのご意見がありました。簡単になりますが概要版の補足は以上です。

では資料2-6の説明に移ります。来館者アンケート結果から複数の項目をクロスした集計結果を報告いたします。まず年齢（A1）、職業（A2）、居住地域（A3）で（仮称）中央図書館基本構想の認知度に差はあるのかを見てみましたところ、ご覧のようになっております。また年齢、職業と閲覧用の椅子や机の数（満足度）や、読みたい本や雑誌の充実度（満足度）との関係を見ましたが、年齢と読みたい本や雑誌の充実度

(満足度)については、年齢を追うごとにやや不満足割合が増える傾向にあります。クロス集計の結果につきましても、分析が不十分ですが、皆様のご意見をいただければと思います。

さいごの資料2-7についてお伝えします。非来館者へのアプローチについて事例を探したところ、LINEリサーチによるアンケート結果がありました。図書館利用の経験は92%ある中で、普段利用は4割の方で、若者ほど利用する傾向が見られたとのこと。これは公共図書館だけでなく、学校や大学の図書館も含めての図書館利用ということですので、公共図書館に限らず図書館を利用している方がいらっしゃって、若年層ほど利用する傾向にあったということだと思います。そして図書館にあると嬉しいものという問いには、全体ではフリーwi-fi、電源が使えるということで、ハード面での機能ははつきり出ております。解説では、外観を重視する傾向の違いや、30代の子育て世代のキッズスペース・託児エリアのニーズなど特徴も指摘されていました。投資効果を考えながら、提供する機能を検討するうえで参考にできる調査結果だと受け止めています。

以上で今回追加しました資料の説明を終わります。

●部会長

ただ今の説明に関しまして、ご質問、ご意見をいただきたいと思いますが、委員の皆様におかれましては、ご発言の際に必ず手を挙げていただきまして、私が示してからマイクを使つての発言をお願いしたいと思います。

今の説明をお聞きになって、何か疑問に思ったことであるとか、感想であるとか、何かございますでしょうか。分量が多くなっておりますし、前回の資料や議論のことでもかまいませんので、皆様のご発言をお願いいたします。

●委員

ご説明ありがとうございました。資料2-5アンケート調査報告書概要版について、2.4.これからのあり方のところで、来館者と非来館者とは結果に差が見られる項目もございます。見直しについての考え方では駅前等に貸出・返却のポイントを設置を選ばれた割合に差がありますし、施設整備・管理運営に民間企業等を活用も同様に市民アンケートの割合が高くなっています。来館者アンケートでは、新サービスより蔵書の充実や、現状の維持を選択された方が相当強く出ており、特徴的だと感じました。両者にこれだけ違いがあると、図書館としてどちらを優先するのか、将来の図書館の姿をどのように描いているのか、それをまず教えていただけないでしょうか。

2.2.本の入手方法でも書店で買うという意見の割合が最も大きいようですが、忙しい世代は駅に近い書店等で購入するほうが手間がかからないということで購入を選択しているのだとしたら、図書館が駅に直結していると図書館で借りるという選択肢も増やせるのかもしれない。いずれにしろ来館者とそうでない方も含めた市民アンケートでは差が出ていますので、まずどちらを参考にしていくのか、理念や将来のあり方を決めておくことが重要だと思いました。

●事務局

登録率が減少傾向にあることからしますと現状維持だけでなく、新しい取り組みの必要性を強く感じています。蔵書の充実とともに、新たな取り組みを展開する必要があります。

●委員

自治体ごとの地域性や背景の違いはあると思いますが、図書館を民間委託している自治体も存在します。そうした自治体の満足度や来館者の動向を示す調査はあるのでしょうか。

●事務局

現在把握しているところでは、例えば明石市ですが、蔵書冊数や貸出冊数も10年前とは比較にならないほど伸びております。近年、市民1人あたりの貸出冊数も7.1~7.2冊と本市（7.7冊）とあまり変わりません。明石駅前の一等地にあかし市民図書館をオープンし、イベント時の託児サービスなどにも取り組んで、貸出冊数という指標1つとっても顕著な実績を上げておられます。本市としても参考にさせていただける点があるように感じています。

●委員

いただいた資料を見まして、資料1-4の評価項目表詳細版については前回もお伝えしたように、各項目一律ではなく、重み付けの必要性を指摘しておきます。また説明の中で2-7のところ累積という補足がありましたが、いずれの項目も基本は最終年度と目標値との関係を見ていくべきではないかと考えます。1-2ホームページの更新頻度や豊中新聞記事のデータ件数を見ても、平均値で出すよりも最終年度でどのような結果だったかとするほうが、この間増やしてきた努力を評価に反映させることができるのではないのでしょうか。1-2-3のように令和2年度（2020年度）に大幅に取り組まれた結果が平均を上振れさせているような項目もありますね。

●事務局

突出した年度により平均値が歪まされる傾向のあることは課題として考えていきたいと思えます。

●委員

目標値がないものは評価に含んでいないと考えて良いんですね。

●事務局

そうですね。定性評価なり、委員の皆様からご意見をいただいて、評価に反映できればと考えております。

● 委員

続いて資料2-4アンケート調査報告書ですが、3ページからの回答者属性について、豊中市民全体との構成比較、国勢調査等のデータ等と比べると見えてくるものがあるような気がしました。資料2-5概要版については質問になりますが、2.2.読書習慣及び本・情報の入手方法のところではn値の違いは、ほとんど読まないを選んだ人を除いた数値ということでしょうか。

● 事務局

委員のお見込みの通りです。

● 委員

2.1.属性も先ほど同様、比較として市民構成の数値があると良いように思いました。市民アンケートの回収率は27.8%ですから、どの世代が関心を持って回答してくださっているのか確認できるのではないかと思います。また質問になりますが、自由記述欄の概要版にあります5.運営についてのところに、図書館内に市民活動団体の事務局機能を持つのはどうかと思うと意見が挙がっています。こういう実態はあるのでしょうか。

● 事務局

何を指しているのか明確ではありませんが、心当たりとしては、しょうないREKという市民との協働の取り組みがございまして、連絡先を庄内図書館にしておりましたので、事務局が庄内図書館内にあるようにお考えになったのかもしれませんが、はっきりしたことは分かりません。

● 部会長

評価項目の重み付けというご指摘については、豊中市立図書館が今後どのような機能に重点を置くのかといったことについても、議論していきたいと思えます。カフェ機能をつくることと、子どもの読書活動や調べものを重視する声もありますから、今後の図書館の取り組みの中で、これまで読書に力を入れてきた経緯を踏まえ、図書館の機能を位置付けていき、評価項目でそれを評価していくのか。基盤となるサービスを据えずに、理念を見失ってしまうと、根本の質が低下しかねません。全体の取り組みという視点を欠くと、いろいろ展開しても何も残らないという懸念もあります。ですから図書館のこれからの活動の方向性を議論していく必要性も感じています。

● 委員

資料2-2来館者アンケート（自由記述）を読みますと、こちらにすべてのことが出てるように感じました。その中でも職員の対応が評価されている点が印象に残っています。若年層では自習室や閲覧席への要望、これらはコロナ禍が落ち着いてくると状

況も変わってくるでしょう。高齢層になりますと、生活の自由時間を最寄りの図書館で充実した時間を過ごしたい。一方で高い所の本は取りにくい。そうしたサポートを考えますと、対面でのサービスの機会を継続するというのも大事なんだと思います。

質問ですが、子育て世代が図書館でお子さんと過ごすことは当たり前のように理解できるのですが、お子さんを預けて保護者の皆さんもご自身の時間を読書やイベントで過ごすということへの要望はあるのでしょうか。

●事務局

そうした声は今回の調査ではありませんでしたが、最近の図書館の取り組みにも託児サービスを実施するところも増えているように思います。明石市や海南市の例を聞いています。海南市では有料になりますが、市民と市民以外で料金体系を分けて実施されています。そちらのコンセプトをお聞きする中で、たまには1人のお子さんを預けて、もう1人のお子さんと向き合う時間を確保してもらえたらというお話を伺いました。そうした姿勢でサービスを提供されているということでした。本市でもそういうニーズは潜在的にあるのではないかと考えております。

●委員

私も来館者と非来館者との間で図書館に来る目的は違うのだと思っています。その違いは当然なこととして、どちらの目的が優先するというのではないかと考えています。来館者は蔵書や現行のサービスを充実して欲しい。非来館者はより魅力のある取り組みを期待する。その視点の違いを踏まえて、どのように評価していくのかを議論していく必要を感じます。それぞれの利用目的がある中で、どこかに重きを置いたり、図書館のめざすところということはあるとしても、利用目的は個人個人違いますので。いろいろな調査結果を活用するにしても、それぞれの解釈をどうするのかは慎重に考えないといけないように思います。

●事務局

ありがとうございます。前回の結果を基に議論した際に、人間関係の広がりということが話題の1つになりました。事前に図書館協議会でも話し合っ、他人との交流や人間関係の広がりについて問う項目を設け、今回もそれを踏襲しています。その項目に注目しますと、今回はより高くポイントが出ておりました。人間関係の広がり具体例を示すのは難しいのですが、本を借りたり、調べものをしたりという項目以外に、こうした点も評価に変化があったというのは改めてお伝えしておきたいと思います。

また重み付けということに関しては、どうしていくのかは皆様と考えていきたいのですが、次年度以降、評価項目表をよりスリムにと考えていまして、その作業過程でどうしても重み付けせざるを得ないのではないかと感じています。基本構想の進捗に合わせて評価も継続するという事を見据えて、次回以降になりますが、案をお示しして議論をしていただけるようにしたいと思います。追加資料をご覧ください。基本構想の3つの基本方針に対応して、評価指標を進捗管理のための項目にしています。そ

これらの項目はより重みのある扱いをすることになるのでしょうか、例えば実貸出利用率ということで年間に1度は利用する人を増やしていこうではないかとか、多様な目的に応える図書館ということで貸出冊数ではなく年間利用者数（来館者数）を指標にしようではないかとか、そうしたことを考えています。知や情報とつなげるという方針に対応して、国立国会図書館のレファレンス協同データベースに本市が公開した事例のアクセス件数がカウントされていますので、本市が提供しているデジタルコンテンツとして質の確保をしていこうということや、総出版点数（年間）の内、図書館が購入しているタイトル数の比率というところを指標にどうかと思っています。そして市民1人あたりの図書館費、利用者満足度を合わせた6つの指標を代表的な項目を用いて、（仮称）中央図書館の開設まで図書館運営を評価していったらどうかと検討しております。こうした進捗管理上の重視する指標と委員の皆様のおっしゃられる重み付けということとが一致するのかわかりませんが、一緒にお考えいただければと思います。

●委員

前回、評価項目表の見直しを本部会で検討するとお聞きしたように思うのですが、今のお話ですと議論のないままに、基本構想の指標を用いるということのようです。その検討はどのようにされているのでしょうか。指標の内容よりもまずどのように決められたのか教えてください。

●事務局

評価項目を見直し、評価のスリム化を図る中で、代表的な指標として6つをお伝えしましたが、それだけに評価指標を絞り込む訳ではありません。令和10年度（2028年度）までに（仮称）中央図書館の設置を予定しておりますので、何らかの指標を立てて、進捗を管理する必要があります。そのための検討を評価部会でご議論いただきたいと考えております。これからの5年間は基本構想の推進が重要な課題となります。これまでの外部評価指標と先ほどの6つの指標を上手く組み合わせて、重み付けなども検討して、話し合っただけのようをお願いしたいと思っています。

●委員

6つの指標は豊中市の図書館活動 I に掲載されていますが、これらの目標水準も図書館が設定された内容と考えて良いでしょうか。

●事務局

概ねそのように受け止めていただいて差し支えございません。基本構想の進捗管理のために指標を設定し、経過を報告することが必要です。それまでとは異なる視点からの評価も求められると想定しましたので、評価項目表に採用していない指標を6つ設けました。実利用や多様な利用を量るとともに、電子書籍を含むデジタルコンテンツの提供なども情報を更新し、質を維持する必要があります。4つ目の指標はタイトル数

の比率によって多様な図書を提供していることを量り、図書館費は効率的な運営をめざす1つの指標になると考えています。最後の利用者満足度は、LINEリサーチの調査事例のように、負担が少ない方法で量れないか、皆様と考えていきたいと思っています。

●委員

先ほどのレファレンスの話題に関して、資料1-4では2-7-5が該当する項目ですね。図書館の努力の感じられるところですが、これも平均値で評価ランクを導いていますので、単純に最終年度と目標値との比較のほうがより適当ではないでしょうか。検索エンジンでも豊中市の回答事例がヒットすることもありますし、個人的にも良く利用しています。

また図書館の役割も蔵書の提供に加えて、場の提供ということも求められています。購入タイトル数の比率を50%とありますが、個人的な感覚では30%でも十分ではないかと感じました。図書館みらいプランとどのように連動するのも気になっています。

●事務局

1月17日から2月6日まで、みらいプランの意見公募手続きを実施しております。基本構想を推進するための計画に位置付けており、みらいプラン独自の指標は設けておりません。あくまでも基本構想の進捗管理の中でということになります。シンポジウムは本市の図書館の未来を市民の皆様と考えるために、基調講演やパネルディスカッションを予定しております。

●事務局

図書館の役割の変化についてはコロナ禍で利用は大きく減少しました。勤務している図書館には掲示板に市のホームページを更新したり、本市の支援施策を掲示してきました。それをスマートフォンのカメラで撮影される市民の姿もありまして、市民が情報にアクセスするうえで図書館のはたす役割ということを改めて考える機会がありました。

インターネットには多くの情報が存在し、有益なものやそうでないものが混在しております。情報を探しにくい一面もあるのが、webの特性のひとつだと思います。市民にとって必要な市の情報が本当に探せているのか懸念を感じます。図書館は地域に必要な情報を届けるということを疎かにしてはいけないと思い出させられました。そうした機能、情報へのアクセス支援や場の提供という点をどのように評価していくのか。委員の皆様のお考えをお借りし、図書館に行けば地域の情報が入手できるという環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。それをどのような指標で評価していくのか課題ですし、求められる役割の変化を反映した評価にしていきたいと考えています。

●部会長

身近な例ですと、教えている学生でもスマートフォンは所有していますし、おっしゃるように検索エンジンで意外と目的とするものを発見できていないようです。レファレンス演習の授業でも、スマホ普及前と比べて格段に目的とするものに到達できているかという、そうでもありません。インターネットに存在する情報量の多さと、情報を組織立てて提供する機関があまり存在しないということ。そうしたことが課題になっているように思います。検索結果の上位にどうしたものが表示されやすいかというと、多くの人の支持を得たものであったり、余計なものが大量に表示されたりする一面があります。関心の強い方はそうした状況を見極めて探せますが、情報の真偽の判断は難しいのですが、情報の並列状態の中から必要かそうでないかを判断するのは、図書館がはたせる役割（窓口）もあるように感じています。どのように評価するのは確かに簡単ではないと思います。

●委員

豊中市では学校図書館で情報リテラシーの育成に取り組んでおりますし、評価指標としては得たい情報が得られたのか、役立つ情報が手に入ったのかどうか、そういう点を量ることになるのではないのでしょうか。情報へのアクセスの仕方は小中学校で情報の扱いを教育しているように、市民にとってその役割を担うのが公共図書館です。先ほどのコロナ禍での情報発信の事例もありましたし、そういうことを評価していくことになるだと思えます。

●部会長

確かに学校教育では情報教育に取り組まれていますし、一定年齢以上はそうした経験のない方もいらっしゃいます。市民の間で差も生じているように思います。自由意見欄に寄せられた声の中にも調べ方を知りたいという意見もありました。レファレンス協同データベースに挙がっている事例も活用できるのではないのでしょうか。

●委員

地域の事業者の経営支援をすることが多いのですが、支援費用には一部補助金を受けています。補助金提供者から支援対象に直接アンケートが実施され、課題は解決したかしなかったかという設問で、明確に支援事業の成果が測られる仕組みになっています。シンプルな評価指標で事業評価に取り組んでいます。

一方で、事業内容が事業者はもちろん市民にとって知られているのかということ非常に心もとなくて、図書館とも共通する課題認識をしております。本を借りる以外に何ができるのか。先ほどの情報発信についても個人的に知りませんでした。必要な情報の発信とともに、情報が図書館に集約されていて、いろいろな窓口になっているということも発信していく必要があるのだろうなと思います。徐々にそういうことが浸透していくと、図書館で解決したという事例も自然と増えていくのだと思います。達成事例から学ぶために、利用者の声を取材して、まとめて公表していくのも良いのではないのでしょうか。評価や満足度を高めたり、図書館の多様な使い方を広めていった

りするうえで有効だと思えます。

● 部会長

現代社会の課題として、日常範囲の知見で物事を判断するのに止まっていて、より広い視野から解決を探るといえることができにくくなっているというのは指摘されているところです。図書館では場の共有が可能ですから、知らないもの同士を結びつける。地域をつなげる役割をはたしやすい施設です。地域とのつながり、地域情報へのアクセス、個人の課題解決とともにそうしたことも図書館が期待されているのではないのでしょうか。いろいろな人の使い方や経験から学ぶということも共有できることだと思えます。

● 委員

すべての人に情報アクセスを保障することが図書館の役割だと思えます。高齢層にとって調べ方よりも調べた結果を提供することも引き続き有益です。個人的に調べることもありますが、調べ方には技術もあり、経験ですから、教えることは簡単ではありません。代わって調べることも司書の専門とするところですし、『調べる技術』（皓星社）という本も話題になっています。そういう技術を活用して、指標としたり、情報発信したりしていくことは良いと思えます。

利用率をやみ雲に上げるのではなく、新刊本を集めるというより、市民に役立ち、頼られる図書館になっていく過程で上がっていくのがあるべき姿のように感じます。資料1-4の2-1-8がレファレンス指標ですが、目標を決めるにあたって現状値と5年後の比較をしないと適切な目標設定できないように思います。現状値がないのは困ります。

● 委員

掲示板による情報発信の取り組みをお聞きして、あの辺りは高齢層の多い地域です。スマホ決済も1人では簡単でないようになります。例えば、見える化ということで少し状況が緩和されることもあるのかなと感じますし、本の紹介や市の情報を掲示板に示すというのは見える化の取り組みとして、高齢層にとって助かる試みだと思えます。情報ツールとしては広報誌がとても充実していますので、より見やすい工夫を加えて、もっと活用してはどうかと感じています。簡単にアクセスする方法を知りたい人も多くいるのではないのでしょうか。

● 委員

『公共図書館を育てる』（青弓社）という本の中に、図書館の外に出ることの効用について言及がありました。市民との取り組みを通して課題が浮き彫りになったり、外から見える空間で取り組むことで気づきもあるようで、良い話だと感想を持ちました。仕事の経験を後輩に引き継いでいくように、図書館も持てる技術を提供していく機会をつくるのも大事だと感じます。

● 部会長

それでは次第その他として、事務局からお願いします。

● 事務局

今回は2月15日18時からの開催を予定しております。本日の議論も踏まえてお願いしたいと思っております。

また、庄内図書館は庄内幸町図書館とともに休館しております。庄内コラボセンター「ショコラ」への移転準備を進めています。2月20日のオープンを予定しております。

● 部会長

ただ今の報告についてご意見等ございますでしょうか。

それでは、ありがとうございました。以上で第2回豊中市立図書館協議会評価部会を閉会します。次回は2月15日（水曜）18時から、会場は岡町図書館になりますので、よろしくお願いいたします。